

午前10時00分

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 欠席委員連絡（小野沢委員）

午前10時00分開議

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

(1) 総合ミュージアム構想について

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 議題宣告
- ・ 先日の現地調査は本市の博物館等5館の現状を把握する上で、大変有意義な調査だったと思う。
- ・ 本日はその現地調査を踏まえて、各委員から御意見などを伺ってまいりたいと思う。
- ・ 各委員、御発言願う。

○吉田 崇仁委員

- ・ この間、博物館本館等5つの施設を調査して、特に博物館本館については市の貴重な文化や歴史、芸術などの資料が保管庫の中に所狭しと置かれていたのには大変驚いた。現在展示している部分も大変狭くて何とか広げたいと思うが、残念なことに保管状況が一般の倉庫と同じく湿度・温度の管理もできない状況である。私が心配するのは、このような函館市にとって貴重な資料や重要文化財の劣化が今後も進んでいくのではないかとということで、1日でも早くミュージアムの建設に向けていきたいと感じた。
- ・ また更に、道路も大変狭く危険な状況で、あれではなかなか見学したくても——今歩いて行くといっても大変だから——そういった道路の狭さが入館者が少ない原因ではないかなと感じている。
- ・ 函館文学館については、郷土にゆかりのある石川 啄木をはじめとした作家について展示している。函館は多くの作家、文芸家を輩出した都市ではあるが、これらを後世に残していくことがまず大事である。建物は本当に古いながらも、ごみ1つ、ほこり1つもなく本当に管理が行き届いていると感じた次第である。
- ・ 北洋資料館はもう役割が終わったのではないかなと感じた。本来、北洋に関する資料は、函館を基地として、サケ・マス船団、さらにはカニまた遠洋、南氷洋の鯨というふうに北洋の貴重ないろいろなものがあった。ところが現在は、津軽海峡で獲れるイカののれん干しやイカ針だとかイカの・・・、北洋には全然関係ない、挙句の果てには戸井の貝塚までであると。私はショックを受けた。倉庫もいいところで残念だ。
- ・ 北方民族資料館は——アイヌは先住民であるが——白老町に建設されたウポポイが非常に大きくやっており、果たして今後函館市でこれだけ手広くやって、人が入ってくるのかちょっと心配だ。

- ・ 私が調べたところ、昨年度——令和3年度の収支決算を見ると、この5つの施設は合わせて2億1,990万円を支出しているが、収入はたったの630万円である。これはちょっと行き過ぎだと思っている。今後はやはり魅力ある、みんなに来ていただけるような資料館をつくるべきではないかと。あまりにも支出が多すぎる。これは指定管理者の人方も心苦しいんでないかと感じて、そういうふうな思いで私なりに調査を終えた次第である。

○遠山 俊一委員

- ・ 今、吉田委員が言われたとおり、全くそのとおりだと思う。
- ・ 博物館本館はあれだけ老朽化して、展示しているものについては綺麗に展示しているが、バックヤードに入ったときに資料の保管状況を見ていて、資料がかawaiiそうだなという思いをしていた——あと湿気の問題もそうだが。
- ・ 我々が全館を視察するのに4時間くらいかかって、この時間的なロスを考えたとときに、やはりこれは1つに統一した方がはるかに見る方にとっては負担も少ないし、効率的に函館を知ることができるのかなと、そういう意味で早急に総合ミュージアムの整備が必要であろうということを感じてきた。

○福島 恭二委員

- ・ 先ほど、吉田委員の言ったことに尽きるのだと思うが、貴重な資料がたくさん眠っているということと言ったときに、やっぱりこれを1日でも早く市民に開放する、見せるということが大事だと思う。
- ・ 何ものでもそうだが、過去があって現在があって未来があるということからすれば、歴史に学ぶという行政であるべきだと常々思っている1人として、やっぱり函館ももう少し歴史遺産を大事にしながら、それに学ぶという姿勢が——追究するということが大事だと思う。そういう意味では、せっかくああいう資料が保管・保存——きちんと保存できるような環境をつくるためにも、ミュージアム構想というのは大事な課題だと改めて感じてきたので、そういう視点で1日でも早く完成させて市民に開放して、歴史を学んでほしいなと思った。

○小山 直子委員

- ・ 私も本館を見学して、本当に老朽化がひどいなと感じた。やはり吉田委員、遠山委員もおっしゃっていたが、バックヤード——収蔵庫があまりにもちょっとひどすぎるなど、本当に貴重な資料があるだけに、そういう意味ではきちんとした収蔵庫を完備する必要があると思った。
- ・ 大事な資料が分散して保管されているという話も聞いたのでそういう意味では、これからのことを考えたときに——それが1か所になるのか2か所になるのか分からないが——ある程度きちんとまとまって保管されないとこれから展示するときでも、ちょっと大変ではないのかなと思った。
- ・ ただ私は、5館を1つに統一するというのは、やっぱり視察をしてもどうなのかなと疑問に思った。というのはミュージアムを1つ作ったからといって全てを展示できるわけではなくて、やっぱり建物の大きさによってはある程度制限されると思う。そうすると、5館の素晴らしい展示品が本当にしまわれてしまうなど。特別展などで繰り返し、いろいろな意味で展示することはできても、日常的に触れることはできなくなってしまうだろうなと思った。
- ・ 文学館や北方民族資料館の建物は、本当に古いが魅力のある建物だったし、そこにあった展示品は、特に北方民族資料館には全世界で5万点ほどしかないアイヌの資料のうちの1万点がここにあるとい

うそういう話で、それをウポポイに何点か貸し出しているということだ。吉田委員は、ウポポイがその役割を果たすだろうというお話だったが、やはり函館でしっかり1万点を保管しているということで、全てをウポポイに送るのではなくて、函館にその原点があるというPRもこれから必要になるのかなと思った。

- どの施設も本当に魅力ある施設だが、残念なのはやっぱりボランティアでもいいが——本当は学芸員が望ましいが——説明していただかないと、展示品なり何なりの魅力が伝わらないなど。いくつかのところで、担当の方や館長に説明していただきながら見させていただいたのでその魅力が私たちにはより分かったが、一般の見学者としてさっとあの館内を見ただけでは、本当に専門家でなければなかなかその魅力が伝わらないのかなと思った。
- 神戸市、名古屋市の方で資料などをどういうふうに表示しているのかを調査するのは、これから楽しみだなと思っている。

○道畑 克雄委員

- 皆さんが言われたのとちょっと同じになるが、1つ思ったのはその博物館が——総合ミュージアム構想では5館を統合して整備するという時期もその場所も明示されてない中ではあるが、これとはまた別に博物館等は老朽化もそうだし、収蔵品の収蔵の在り方というか——あれはもうちょっとひどいかなと思ったので——これはもうとにかく5館をどうにかする、統合するかしないかと別に——ちょっと何とか改良というか何かしないとならないのかなと感じた。
- 現状でいくと、文学館や北方民族資料館、郷土資料館もそうかと思うが、既存の建物を活用しているので、先ほどから収蔵品がバックヤードに多くて眠ったままの状態のものが多いが、今の状態で使い勝手だとか、見せる側の問題としてもどのように感じられているのか。例えば、場所はここでなくて、別のほうがいいんだよなみたいな感じになるのか。そういったことも含めてちょっと考えてみると、なかなか5館一緒にいいかどうかといった問題だとかも先には進まないのかなという印象もあった。
- いずれにしても、やっぱりせつかくある資料をできるだけ見ていただける形での運用が望ましいと思うので、今の状況でどのくらいが限界点なのかというところなんかもちよっときちっと検証しないとならないのかなと思った。

○池亀 睦子委員

- もうほとんど考えること、感じることは皆さんと一緒にだと思う。ただやはり5か所回ってみて、皆さんもほどよく疲れたと思う。
- 函館市の今後の人口減少、そして少子高齢化の進展、その辺をしっかりと根本的にはまず議論する。歴史を学ぶことと市民の生活の中にそのことがどう反映していくのかとか、その辺の総論的なところをまずしっかりと議論して——建物だけを考えていくのではなくて——どう有効なものにしていくのかという意味では、市民のニーズとかそういうことをしっかりと調査していく必要があるのかなと強く感じた。来館——市民がおいでにならない原因というか、いろいろな角度から分析した上でのミュージアム構想でなければ、ただ単に建物を建てて物を移動させたということになるのか。その根拠とかをしっかりと議論していく必要があるなど。しかし、議論するためにはやはりいろいろなものを

——私達も5か所を調査して、具体的なことはもう他の委員からも出たので述べないが——やはり市民が訪れないというところをもっと考えなければいけないと思った。私も歩いてみて、もちろんエレベーターはどこにでもあるわけではなく、これはもう高齢者は無理という状況で、アクセスにもかなり問題がある。だから、いろいろなことを考えて——活断層とかいろいろ言われていて、津波、それから今の温暖化による災害などが発生している中で、やっぱりそういうこともしっかり議論されないと残していけないなど、これは無視できないなど思っている。

- ・ バックヤードを見たときに、これだけのものが眠っているから早くしなければというのをすごく感じたが、だからといって何か急速にやっては失敗するなというか、やっぱり、市民にとって函館の歴史、レガシーと自分、その辺とかもしっかり議論した上で、構想を進めていかなければいけないなど強く感じた。資料の管理や空調環境とかをしっかりとしなければいけないということはもうみんなが感じてきたので、その辺が非常に大事になってくるなど私は思った。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 皆さんの意見に同感だが、ただ5つを回ってみて、本当に函館市の貴重な財産を見た気がした。
- ・ この貴重な財産をどうするか、市民の声なくして進めてはいけないなど思ったので、5つを1つにするとか2つにするとかそういうことも含めて、市民を巻き込んだ議論をして構想をつくると、そういうことをしていかないと駄目だなと改めて思った。
- ・ さっき、アイヌの資料が世界で5万点のうち、1万点が函館にあるという辺りでは、私もウポポイを見てきたが、アイヌの歴史の深いところをもっと知りたい、函館市とアイヌの関係も知りたいという辺りでは、私はアイヌの資料だけでも1館できるのではないかという思いでいた。
- ・ ハード面でいうと、古い建物で建物自体も本当に貴重だが、やはり障がい者、高齢者も含めて来館者が展示を見るような環境にはないなど思った。それは早急に建物自体はきちんとバリアフリー設備を備えた建物にしてほしいなど思っていて、そのときに車椅子の人、それから視覚障がいの方、聴覚障がいの方たちにどう展示物を見せているのか、そういう配慮をどうしているのか、そこは次の調査で各施設から学んできたいと思うので、調査の中にもそういった視点を入れてほしいというのが私の感想だ。

○池亀 睦子委員

- ・ 高齢化が進む中で、自宅にいながら歴史散歩できるとか、そういうIT関係の取組は今後必要だなというのはすごく思った。やっぱり博物館に行けない方もいる。今家で会議ができる時代なので、構想を進めていく中ではそういう考えも1つは大事なかなと思った。ちょっと言うのを忘れてたので。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ バーチャルみたいなものということか。

○池亀 睦子委員

- ・ バーチャルというか。やはり今お葬式、墓参りでも全部リモートでやってくれるので、そういう社会にどんどんなっていくかなと、デジタル化の社会にどんどん進むのでやはりそういう視点も大事だなと。個人が必要な資料を確実に自分の自宅で受けられるような時代にどんどんなっていくと思うので、そういう視点も大事なかなと思った。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 私からも1点、先ほど小山委員がおっしゃったように、学芸員の説明がちょっと足りないということで、音声ガイドを取り入れている施設がなかった。そこもちょっと気になったところだったので、付け加えさせていただく。

○遠山 俊一委員

- ・ 今回5つを回って、回らなかったのは縄文遺跡の関係の施設の方だ。
- ・ 前回の議会で、世界遺産センターの話が出て、その後報道でも——私たちに資料配付もあったが——産業団体も含めて、道に要望に行った話も出ていた。例えば、世界遺産センターの設置の話が進んだとして、そこには世界遺産をもっている自治体の遺跡が多分展示されるんだろうと。そうなったときに総合ミュージアムではどのような形で縄文を展示するのか。
- ・ 今回、博物館の倉庫の中で戸井貝塚のすばらしい切り抜き——地面の切り抜きが、なんでここに無造作に置かれているのか、本当にびっくりした。函館には遺跡が400か所くらいある。そしてサイベ沢遺跡とかと函館空港中野遺跡とか素晴らしい遺跡がまだまだあって、世界遺産に登録された遺跡のほかに、そこに登録されないが素晴らしい価値を持った縄文の遺物がある。だから、その辺をどういうようにすみ分けていくのか、世界遺産センターと総合ミュージアムの中にどのような形で縄文を展示するのか、その辺の兼ね合いも考える必要があるかなと感じていた。

○小山 直子委員

- ・ その点に関しては、専門家の人はどうして函館に埋蔵文化財センターがないのだろうかと言う。遺物の数だとかそういうことを含めると、1館の博物館で収まるようなものではないそうだ。やっぱりそういう埋蔵物は埋蔵物として考えるということもまた必要なのかなと思う。

○池亀 睦子委員

- ・ 世界遺産登録されたものは、世界的にマニアも多く、総合ミュージアムとは別のものだと思う。だから遠山委員のおっしゃる思いはすごくよく分かるが、やっぱり今総務常任委員会の調査事件である総合ミュージアムとは切り離していく必要があるのかなと。
- ・ 本当に世界遺産登録されると——今は新型コロナウイルス感染症で全然走り出してはいないが——私も登録されたところに行ったことがあり、皆さんもいろいろなところを見ていらっしゃると思うが、本当にすごい数の人たちが来ているので——だからそこはちょっと今分けて考えていく必要があると思う。もちろん意見としては言うていく必要があるかもしれないけど。

○福島 恭二委員

- ・ こうやって歴史・文化の問題を議論するようになると、我々議会ももっともっと感心を持ちながら、いずれにせよ何の質問でも、こういった問題を念頭に置きながら行政運営をすとか行政が動いていくということがあって当然だと思うが、なかなか我々自身も常日頃からそういうことを考えながら、そういう発想をもって取り組んでいけばいいんだろうけどもしてこなかった。ともすれば何か行政のほうから出てくる問題だという感覚が今までであったのではないかなと思う。ところが、残念ながらこれまで積極的にそういったことに基づく対応というか、行政運営があまり見えなかったと。やっぱり行政だけに期待——頼ってきた面もあるのではないかなと思うときに、担当する職員そのものも入って、

眠っている収蔵品をこのまま本当にほっといたらどうなるか、なくなってしまうのではないかという危機感を持ってくれば一番いいが——持ってないとは言い切れない、持っているだろうが——なかなかそういう大事な物を保管するという事に予算をつけてもらえないということを考えれば、結果的には行政のトップに立つべき人たちが、周辺の人たちがいかにその歴史・文化というものを大事にするかということへの表れだろうと思う。これまでどうも我々も積極的にただしてこなかったということもあるが、残念ながら行政のほうからもそういうことが積極的に出てこない。どっちが悪いとは言わないが、やっぱりこれまでの函館の文化を受け継ぐ問題、歴史的建造物の問題を含めて考えれば、今言われたように、たくさん発掘された遺跡があるにもかかわらず、そういったものを大事に、大切にしようという発想が出てこなかったと。私どもも含めて、改めて考え直してみるときだなと感じた。

- ・ 願わくばもっともって専門家として、資料館や博物館に勤務する職員が——本当に専門家ばかりなのかどうか分からないが——本来であればもうどこかにすがりついても、何としてもこれに予算をつけてもらわなければ、これはもう保存できないからお願いしますというか、何か積極的な姿勢になり得るような人と環境が欲しいなと。だからそういう誰かがいれば、例えば今、縄文遺跡の関係で、教育委員会の人が一生涯懸命に説明してくれる。あのくらい縄文馬鹿というくらい——言葉が適当なのかは分からないけど——それくらい力を入れるような人が欲しい、本当は。その意見を聞いて、そうだなということでも予算をつけてもらうというようなことがあれば一番いいが、なかなかそういった人が感じていたとしても、そういう環境にないとなかなかそれを生かしきれないと。その結果、ああいふふう重要な資料も眠ったままになっていると。しかも、保管はしているが保管環境が決して良い状況でないということを考えれば、やっぱりもっともって我々自身もこれに感心を持っていかなければならないと改めて感じた。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 他に御発言あるか。（なし）
- ・ 現地調査で本市の博物館などの現状を把握し、各委員から様々御発言いただいた内容も含めて、今後神戸市及び名古屋市での行政調査にぜひ生かしてまいりたいと考えている。
- ・ 次に、9月6日の本委員会において、作成を正副に一任いただいた行政調査時の調査票については、内容について各委員御覧になったかと思うがいかがか。（異議なし）
- ・ 調査票については依頼文とともに、神戸市及び名古屋市に送付する。
- ・ 行政調査の日程だが、11月8日から10日までの3日間としたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ その他、本件について各委員から何かあるか。（なし）
- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何かあるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時30分散会